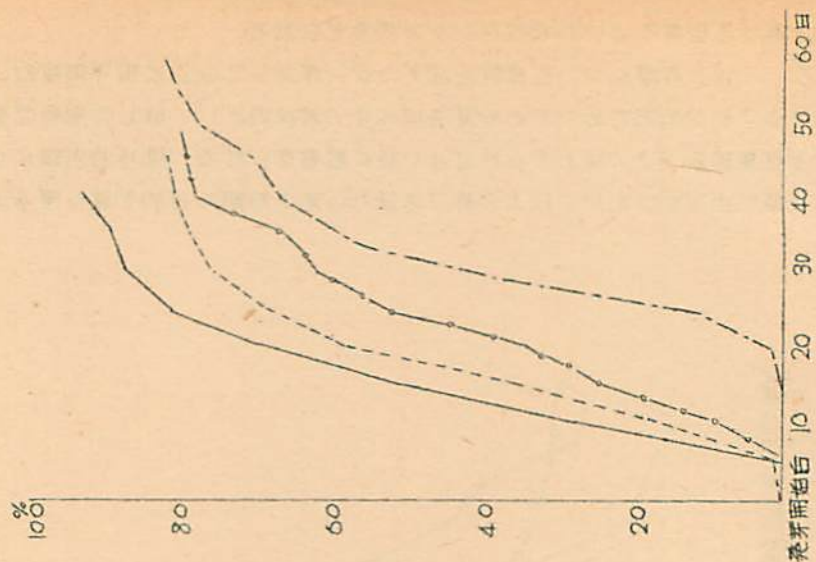
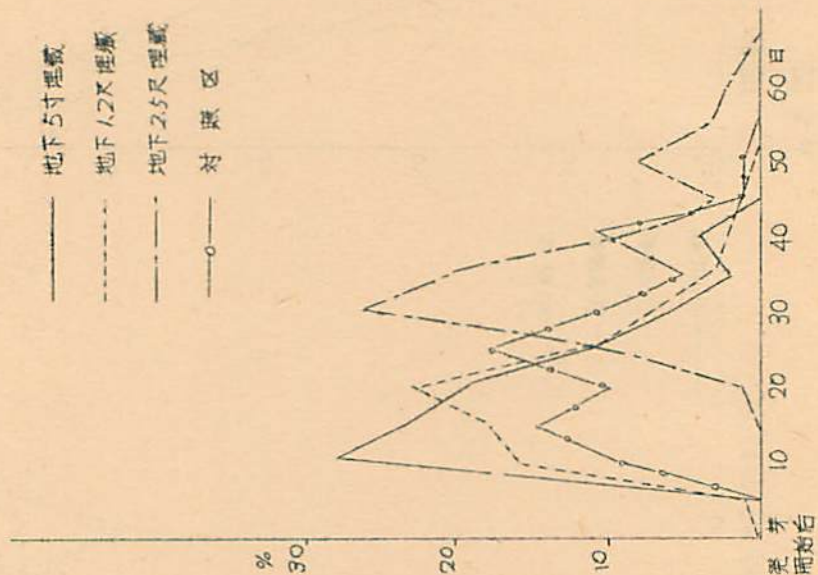


第4回 埋藏深度比較



第3回 埋藏深度比較



## 支那油桐「鹿兒島一号」について(予報)

鹿兒島果林業試験場 中村 敏  
寺尾 正 郎

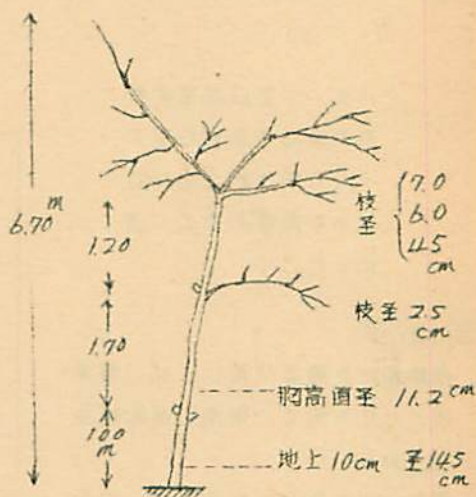
〔緒言〕 昭和12~13年頃農林省に於ては支那油桐の栽培を大いに奨励し種苗を各県に多量轉送して之が急速な増殖を圖つた。当時鹿兒島県に於ても一般に之を栽

括せしめると共に果採果試験場に於て苗木を養成して栽培試験を行い、又県下各地の農林家に配布して栽培を奨めた。当時栽培されたものは戦時中に大部分が伐られたが現在も各地に残存し、品種は四川種、湖北種が多い林に思われる。当場では昭和25年に之等残存樹の更替調査を一部行つたがその中当場産苗で昭和13年植栽のもので特に注目し値し優良種と思われ、現在まで文献その他に見受けられない果実種子の大型の珍種一本を発見したので之が育種に着手した。

果して固定した品種と言ひ得るものか、この性質は如何なる程度継承するものか、未だ断定出来る域に達していないが「鹿兒島一号」なる仮名のもとに取敢えずここにその形態を紹介する。

### I. 樹 並 に 葉

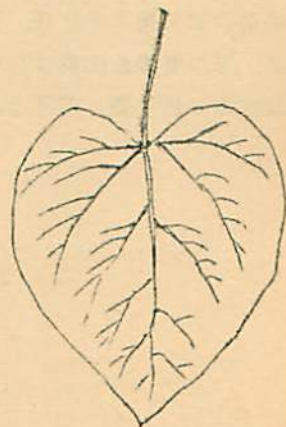
樹は一般支那油桐と外観的に異なる所なく、樹高、直径等は下図の通りで近辺に同時に植栽された地種の樹より稍々生長が劣る。樹型は元米階段状のようであるが下枝は枯上つて傘状となつてゐる。葉の形は他種と同林下葉は残い三裂で上部のものは無裂の心臟形である。葉脈は他種のものとは赤褐色であるが本種は白色又は淡緑色を呈する。毛茸は他種と同型である。



### II. 結 実

隔年結果の傾向があるが10年未熟と肥培管理が行われなかつたので今後の管理により結果の向上が期待出来る。昭和27年の結果状態はキ一表及びキ一図の通りで、又本場産四川種A型及びC型の結果中葉樹の結果を比較すればキ二表の通りである。

即ち本種は種子五個入のものが8割を占める単実性であり、6個入のもの約一割を結果する。

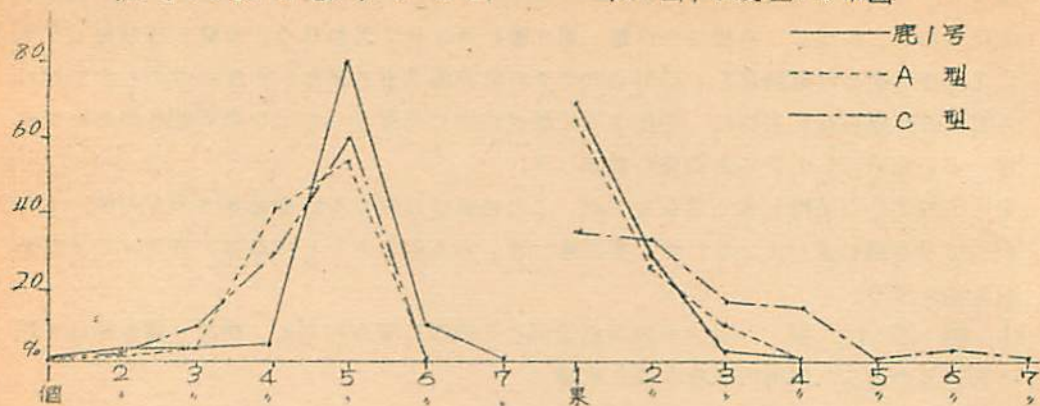


### キ一表 結実数

枝の着果	種子入数	2個	3個	4個	5個	6個	計	備 考
一 課				3	58	7	68	
二 課	4	3	1	20		28	14組	
三 課				1	2	3	1組	
計	4	3	4	79	9	99	種子採算2升6号	

種子入数別 穂果分布図

一枚の着果数別穂果分布図



(A型、C型は兵庫果林  
系試験場で果実の型に  
より分類されたもので、  
之を本場産のものに適  
用した。)

### III. 果実

成熟期が多種より着しく晚く、落果は11月下旬で、用花も遅れ鋭生種である。

果実は図の様な大形で甚しい扁平形、先は凹み特異な形状を呈する。当場産の四川種とその茎、果高、穂高、並に重量を比較すればオ三表及びオ四の通りである。

オ二表 A型・C型の結果

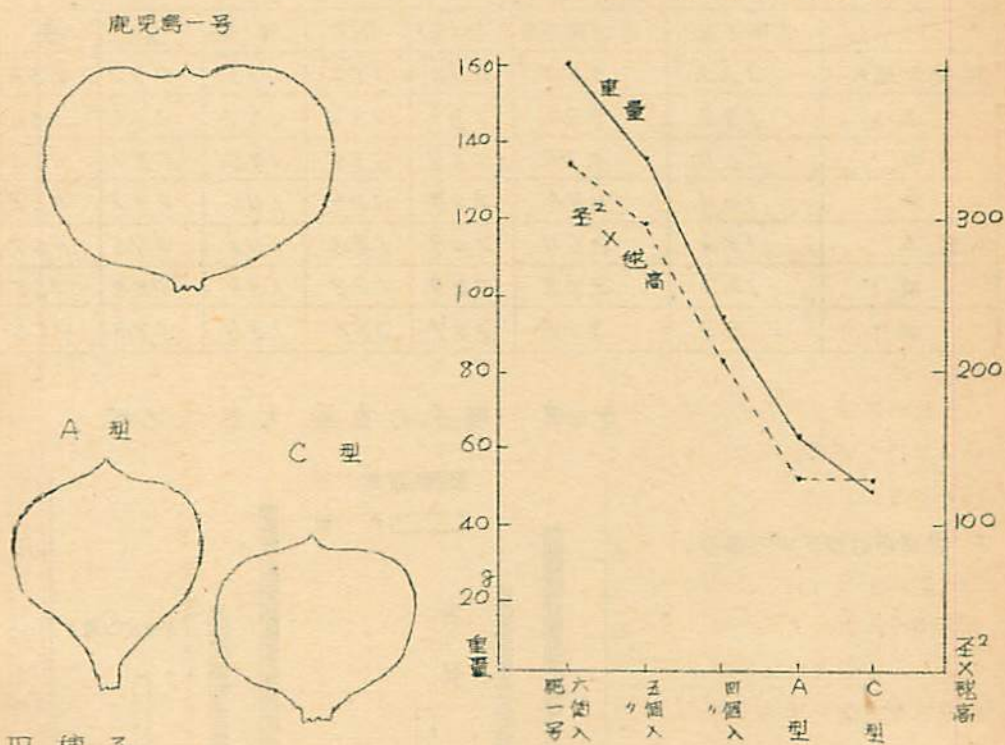
一枚の着果	A 型	C 型
一果	56	64
二果	22 (11組)	60 (30組)
三果	9 (3組)	36 (10組)
四果		28 (7組)
五果		
六果		6 (1組)
計	87	188

種子入数	A 型	C 型
一個	0	0
二	2	7
三	3	17
四	35	53
五	47	111
六	0	0
計	87	188

表三 果実の形態

種別	直径 (D)	果高 (H)	縦高 (H')	$\frac{H}{D}$	$\frac{H'}{D}$	重量 (g)	備考
鹿ノ号一果或六個入	7.68	6.02	5.74	0.78	0.75	160.7	調査数 6
〃 〃 五〃	7.11	6.05	5.81	0.85	0.82	135.6	〃 55
〃 二果或五〃	6.79	5.91	5.72	0.87	0.84	122.0	〃 14
〃 一果或四〃	6.17	5.80	5.47	0.94	0.89	94.3	〃 3
四川 A 型	5.28	6.11	4.66	1.16	0.88	63.2	〃 120
〃 C 型	5.26	5.27	4.63	1.00	0.90	48.9	〃 30

表四 果実の大きさ



IV. 種子

本種並に四川種A型の種子を約100個宛任意に取出し、その重量、長さ、巾、厚さを測定比較すれば表四並に表三の通りである。

即ち「平均重量」及び「長×巾×厚」につきA型100に対し本種に於ては夫々179及び169であるから7割以上大きい事を知る。

又入数別に至果実重量、長さ、巾等を比較すれば表五の通りで、入数の多い果実の種子は扁平度が強くなるが平均重量に於ては鹿ノ号は5個入、A型では3個入のものが最大である。

表四 鹿 種子の比較

区分	一個の重量	長さ	巾	厚さ	
鹿一 号	最大	6.51 <sup>g</sup>	3.00 <sup>cm</sup>	2.50 <sup>cm</sup>	1.80 <sup>cm</sup>
	算術平均	5.72	2.87	2.33	1.65
	モード	5.6~5.8	2.8~2.9	2.2~2.3	1.6~1.7
A 型	最大	4.09	2.70	2.15	1.56
	算術平均	3.20	2.45	1.91	1.38
	モード	3.2~3.4	2.4~2.5	1.8~1.9	1.3~1.4

表五 入数別一果当り種子重量並に形状

	全種子重	平均種子重	長(l)	巾(a)	厚(b)	$\frac{a}{l}$	$\frac{b}{l}$
鹿一号大個入	32.2 <sup>g</sup>	5.37 <sup>g</sup>	2.90 <sup>cm</sup>	2.08 <sup>cm</sup>	1.58 <sup>cm</sup>	0.72	0.54
五・	29.8	5.96	2.89	2.34	1.57	0.81	0.54
四・	26.4	5.10	2.64	2.30	1.45	0.87	0.55
三・	14.4	4.80	2.48	2.29	1.45	0.92	0.58
A型五・	13.2	2.64	2.49	1.83	1.41	0.75	0.57
四・	12.2	3.05	2.47	1.98	1.36	0.80	0.55
三・	9.3	3.10	2.47	2.06	1.36	0.83	0.55

表三 鹿 種子の重量、大きさ比較

Ⅶ、含油率は検定中である。

尚実生、接木、交配等により育種面の研究を行つて  
いるが、完結の際発表した  
い。

